

令和7年度  
名古屋市立大学大学院看護学研究科  
博士後期課程（看護学専攻）

---

# 学生募集要項

---

名古屋市立大学大学院看護学研究科

## 名古屋市立大学大学院アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

### 【看護学研究科博士後期課程】

#### 《求める学生像》

- ・自らの問題意識を深め、倫理的配慮を含めて計画性を持って課題を探究していくことのできる人
- ・看護実践から得た知見を生かし、論理的な思考に繋げられる人
- ・修得した高度な教育研究能力を活用し、看護学・助産学の発展に貢献する意欲があり、看護学・助産学の教育研究職に就くことを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
- ・世界レベルの研究に目を向け、高い知的関心と粘り強さで、研究をやり遂げる意志のある人

#### 《修得しておくべき知識の内容・水準》

- ・希望する看護領域の専門的知識
- ・看護学研究の遂行に必要な研究能力
- ・英語文献講読、論文作成並びに発表に必要な語学力
- ・自律した研究態度

## 令和7年度大学院看護学研究科入学者選抜試験スケジュール

対象者	事項	日程
資格審査を必要とする者のみ	資格審査申請期間	令和6年7月17日(水)～7月23日(火)
	資格審査結果発表	令和6年8月5日(月)
出願者全員	出願期間	令和6年8月15日(木)～8月22日(木)
	選抜試験期日	令和6年9月21日(土)
	合格発表	令和6年10月2日(水)

## 1 募集人員

### 看護学専攻 5名

募集する教育研究分野・領域（教育研究領域の詳細については、8～11 ページを参照ください。）

研究分野	領域
健康支援看護学	性生殖看護学・助産学
	成育保健看護学
	クリティカルケア看護学
	周手術期看護学
	慢性看護学
	高齢者看護学
	先端医療看護学
ケアシステム看護学	看護マネジメント学
	感染予防看護学
	精神保健看護学
	在宅看護学
	地域保健看護学
	国際保健看護学

## 2 出願資格

出願資格は次のいずれかに該当すること。

- (1) 修士の学位を有する者又は令和7年3月までに授与される見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位若しくはこれに相当する学位を授与された者、又は令和7年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者、又は令和7年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、又は令和7年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、又は令和7年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)に規定する教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修した者であって、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められたもの
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 本学看護学研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7年3月31日までに24歳に達するもの

### 3 資格審査（出願資格(6) (7) (8) で出願しようとする者は資格審査を受けること。）

#### (1) 資格審査申請期間

令和6年7月17日（水）～7月23日（火）【**必着**】

#### (2) 申請書類（書類の作成は、5 出願書類等に準じること。）

- |  |   |             |
|--|---|-------------|
| ①資格審査願                                   | } | ①～③は所定用紙を使用 |
| ②履歴書                                     |   |             |
| ③業績書                                     |   |             |
| ④最終学歴 <sup>*</sup> の学校長が作成した卒業証明書及び成績証明書 |   |             |
| ⑤既発表の代表論文1編（コピー可）                        |   |             |

**※看護師、保健師又は助産師の免許を有する者にあつては、その免許を取得するために卒業したすべての養成所等の卒業証明書及び成績証明書もあわせて提出してください。**

**※卒業証明書、成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出してください。**

#### (3) 資格審査に必要な提出書類の郵送方法及び郵送先

封筒の表に「看護学研究科博士後期課程資格審査書類在中」と朱書きし、上記(2)の申請書類を下記提出先に必ず**書留速達**で郵送してください。申請は郵送に限ります。窓口受付は行いません。

国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が申請手続きを行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの郵送による申請は受け付けませんので注意してください。）

#### (4) 審査結果

令和6年8月5日（月）以降に通知します。

### 4 出願手続

#### (1) 出願期間

令和6年8月15日（木）～8月22日（木）【**必着**】

#### (2) 出願方法及び出願先

- ・本学所定の封筒に出願書類を入れ、**書留速達**で下記提出先まで郵送してください。**出願は郵送に限ります。窓口受付は行いません。**
- ・**出願にあたっては、志望する研究領域の教員に連絡し、必ず事前に相談（試験当日の口述試験の方法等を含む）してください。**（連絡先は8～10ページの担当教員一覧を参照ください。）
- ・期限までに到着しなかった場合は受理しません。**（期間内消印有効ではないので注意してください。）**
- ・国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの郵送による出願は受け付けませんので注意してください。）
- ・出願書類を受理したときは、受験票、受験案内を送付します。  
\*令和6年9月6日（金）を過ぎても届かない場合は、学生課入試係看護学研究科入試担当にお尋ねください。
- ・外国の高等教育機関で発行された卒業証明書等で、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。この場合、原本の送付は必要ありませんが、入学手続きの際に原本を確認するので必ず原本を持参してください。

#### <資格審査申請書類・出願書類 提出先>

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

名古屋市立大学教育研究部学生課入試係 看護学研究科入試担当

## 5 出願書類等

書 類 等	摘 要
① 入 学 願 書 写 真 票 受 験 票	〔本学所定用紙使用〕 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー、縦4 cm×横3 cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼り付けてください。 受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。
② 履 歴 書	〔本学所定用紙使用〕 ・学歴は、高校卒業から記入してください。 ・職歴（研究生などの実績も含む）があれば記入してください。 ・看護師、保健師又は助産師免許を所持する場合は、その免許登録番号を記入してください。 ・出願資格(2)～(6)により出願する者は、初等教育（小学校相当）から高等教育（大学相当）まで、修了した学校教育をすべて記入してください。
③ 博士前期課程・ 修士課程修了 (見込) 証明書	在籍又は出身大学院研究科長等が作成したもの。 出願資格(2)～(6)により出願する者は、学位の授与等を証明する書類を提出してください。コピーは不可。（ただし、証明書の再発行が困難なものはコピーの提出を認めます。この場合は、原本は送らないでください。合格者は入学手続きの際に原本を持参してください。）日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
④ 成 績 証 明 書	在籍又は最終学歴の学校長等が作成したもの。 出願資格(2)～(6)により出願する者は、修了した高等教育機関（大学学部及び修士課程相当）の成績証明書を提出してください。コピーは不可。（ただし、証明書の再発行が困難なものはコピーの提出を認めます。この場合は、原本は送らないでください。合格者は入学手続きの際に原本を持参してください。）日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
⑤ 修士学位論文等	修士の学位論文（相当する論文も含む）及び、修士の学位論文の要旨（※2,000字程度）又はそれに相当する論文の要旨（※2,000字程度）を提出してください。いずれもコピー可。修了見込みの者は、修士論文の概要と研究の進捗状況（※2,000字程度）を提出してください。※いずれも任意の様式で作成してください。
⑥ 研 究 計 画 書	〔本学所定用紙使用〕 指定された書式で、博士後期課程に入学後に実施したいと考えている研究計画についてまとめてください。提出された研究計画書に基づいて、口述試験を行うため、研究課題、その研究課題に取り組むに至った動機・経緯、具体的に解明したい事項、その解明を行うことの学問的または社会的な意義等について、分かりやすくまとめてください。
⑦ 志 願 理 由 書	〔本学所定用紙使用〕 志願理由を分かりやすく、800字程度でまとめてください。
⑧ TOEIC® L&R 公開テストの成績	試験主催者から本人に送付された Official Score Certificate（公式認定証）を提出してください。コピーは認めません。ただし、平成 31 年 4 月以降に受験した認定証に限ります。 ※出願までに公式認定証の提出が間に合わない場合には、試験当日の提出を認めません。試験当日に公式認定証を提出する場合には、出願時には「TOEIC® Listening& Reading Test スコア未提出理由書」〔本学所定用紙〕を提出してください。
⑨ 住 民 票 (外国籍の者のみ)	・外国籍の者で在留資格がある者は、提出してください。 ・在留資格期間が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。 ・国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。

		※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得してください。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出してください。
⑩	入学検定料等 (30,344円)	振込依頼書（本学所定のもの）を使用し、必要事項を記入のうえ、30,344円（入学検定料30,000円＋受験票等送付のための速達郵便料金344円）を添えて、銀行などで振り込んでください。（ <b>ゆうちょ銀行（旧郵便局）では取り扱いません。また、ATM等は使わず必ず窓口で振り込んでください。</b> ） 振込手数料は、志願者本人の負担となります。 銀行などから受け取った「検定料納付証明書（B票）」を、他の出願書類と一緒に提出してください。「振込金（兼手数料）受領書（A票）」は、入学志願者が保管するものですから、注意してください。
⑪	あて名用シール	〔本学所定用紙使用〕 返信先を明記してください。受験票等の送付及び合否の通知に使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。
⑫	出願書類提出用 封筒表紙	〔本学所定用紙使用〕 必要事項を記入し、ご自身で用意した市販の角型 2 号封筒に貼り付け、出願書類を封入の上、学生課入試係宛て郵送してください。

注 1) 資格審査を申請した者は、出願時に②、③及び④の再提出は不要です。

注 2) 卒業証明書、成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出してください。

注 3) 在職のまま就学を希望する者は、受験承認書や就学承認書は必要としませんが、勤務先とのトラブルが生じないように十分配慮してください。

注 4) 原則、既納の入学検定料は返還しません。ただし、以下の場合には納入された入学検定料を返還します。詳細は本学ウェブサイトを確認してください。

- ・二重に振込んだ場合

- ・入学検定料等を振込んだが、出願書類を提出しなかった場合（出願が受理されなかった場合を含む）

注 5) 提出された出願書類は返還しません。

## 6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず学生課入試係看護学研究科入試担当（電話：052-853-8020）まで申し出てください。

## 7 入学者選抜期日及び方法

### (1) 期日、時間、科目等

試験期日	試験時間（予定）	試験科目
令和 6 年 9 月 21 日（土）	12:00～13:00	専門科目
	13:30～	口述試験

### (2) 試験会場及び集合時間

名古屋市立大学看護学部棟（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地）

**※試験開始時刻は変更することがあります。**受験票とともに、確定後の集合時間や試験時間等を記載した受験案内をお送りします。

### (3) 口述試験

- ・口述試験は一人 20 分程度で行います。

- ・事前に提出された研究計画書に基づいて、口頭試問を行います。

## 8 合格発表

令和6年10月2日(水) 10:00

看護学部棟1階入口付近に掲示するとともに、本人あて合否を通知します。

## 9 入学手続

### (1) 手続期日(予定)

令和6年10月中旬頃(合格通知と共にお知らせします)

\*上記の日時に手続できない場合は、書留速達により**手続期日の前日必着**で書類を郵送してください。

### (2) 手続方法

合格発表後、速やかに詳細を本人あてお知らせします。

### (3) 入学手続時に必要な経費

ア 入学料	名古屋市住民等	232,000円
	その他の者	332,000円

イ 学生教育研究災害傷害保険料	2,600円
-----------------	--------

注1) 上記は、令和6年度入学者の金額であり、令和7年度については改めてお知らせします。

注2) 名古屋市住民等とは、①入学者又は②入学者の配偶者若しくは1親等の親族が入学の日(4月1日)において、同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

注3) 入学料等は、入学手続時まで金融機関で納入してください。既納の納付金は返還しません。

注4) 入学料について、本学大学院の看護学研究科博士前期課程を修了して、引き続き同研究科博士後期課程へ進学する者については、納付する必要はありません。

## 10 授業料

年額 535,800円(前期・後期分 各267,900円)

注1) 授業料は、入学後、年2回(前期・後期)に分けて納めてください(口座引落)。

注2) 授業料は、令和6年度入学者の金額であり、令和7年度については改めてお知らせします。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用します。

注3) 必要な諸経費について、別途徴収することがあります。

### 11 授業料の減免制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる場合には審査の上、授業料の全額または半額、もしくは4分の1の額が免除されます。詳しくは、学生課学生支援係(電話:052-872-5042)へお問い合わせください。

### 12 長期履修制度

- ・職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができる制度です。
- ・博士後期課程の標準修業年限は3年ですが、長期履修学生の在学期間は4年となります。
- ・授業料は、標準修業年限期間の授業料総額を、決定された履修期間で按分した額とします(年額)。
- ・この制度に関するお問い合わせは、看護学部事務室までお願いします(電話:052-853-8037)。

### 1 3 奨学金制度

日本学生支援機構において、大学院学生に対する貸与制度があります。  
希望者については本学において、学業成績及び研究能力等を審査の上、推薦手続をとります。

### 1 4 個人情報の取り扱い

個人情報については「名古屋市個人情報保護条例」に基づいて、次のとおり取り扱います。

#### (1) 個人情報の利用

- ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うため使用します。
- イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を、今後の入学者選抜及び大学教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。）
- ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、就学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

#### (2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

### 1 5 注意事項

- ・ 出願書類等が不備の場合は受理しません。
- ・ 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- ・ 出願書類等は返還しません。
- ・ 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課入試係看護学研究科入試担当〕に連絡してください。
- ・ 二重学籍は原則禁止とします。
- ・ 悪天候や災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイト等により周知しますので、受験前は特に注意してください。また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、入学願書や資格審査願には、必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

#### 敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。



## 大学院看護学研究科博士後期課程（健康支援看護学分野）研究領域・担当教員一覧

※各教員連絡先メールアドレスの後には@med.nagoya-cu.ac.jpをつけてください。

※先端医療看護学分野は担当教員を選択することができます。選択した研究領域の指導教員と必ず事前相談をしてください。

※教員により在学キャンパスが異なります。事前相談の際にはご注意ください。

分野	研究領域	担当教員／ 連絡先	研究領域の紹介
健康支援看護学分野	性生殖看護学・ 助産学	教授 脇本 寛子／ e-mail: wakimoto	女性の一生を通じた健康への支援や子どもを産み育てる女性とその家族への支援を探求します。自らの研究疑問を基に、先行研究の文献検討を行い、研究目的、研究計画を明確にします。必要に応じて研究手法を学修します。その後、データ収集、分析、論文投稿、予備審査、第二研究の計画立案、データ収集、分析、博士論文の作成に至ります。日々コツコツとした努力を積み重ね、臨床課題の解決および看護/助産実践ケアの向上に寄与できる研究成果を目指します。博士前期課程での助産師取得も増えており、臨床看護師/助産師の研究も支援したいと考えています。
		教授 尾崎 康彦／ e-mail: yozaki	分娩は“十人十色”ですが共通する願いは一つです。“安全・安心で満足度の高いお産”をアウトカムとする、産科ケアの開発を目指します。少子化の歯止めの効かない日本でも、ハイリスク分娩は確実に増加しています。妊娠や分娩に関わる医療も常に進化しより濃厚なものになっています。世界に誇る日本の周産期医療を維持し、さらに向上させるためには、分娩に携わる医師、助産師、看護師、救急救命士、心理士や薬剤師らがよりハイレベルの知識と技術を身につけ“チーム医療”を構築することが重要です。多職種を巻き込んだ「災害時・病院前分娩」、「胎動」、「生殖医療（不妊症・不育症）」、「バイオマーカー」や「リカレント教育」をキーワードとする研究を展開します。
	成育保健看護学	教授 山邊 素子／ e-mail: sakura33	小児看護学全般を研究することができます。小児外来・病棟・ICU、救急部、内科・外科の複合的な病棟（感染症、エイズ）での勤務、保健師1年過程の教員（1年間）、助産院でアルバイトの経験から、周産期医療、地域連携、訪問看護など、幅広い視野で小児看護学を探求する知識と技術を大学院生に支援します。米国で数日間の研修も経験し、国際学会発表の機会には現地の病院見学も行いました。博士課程の取得は研究者としての独り立ちを意味します。研究デザイン、概念枠組みの「研究の基礎」を、わかるまで指導、データ収集、分析も適切な支援を行います。日本の看護実践は世界一であると海外を見聞したからこそ感じます。日本の小児看護を世界に提供するために共に、学びあいましょう。
	クリティカルケア看護学	教授 中村 美鈴／ e-mail: nmisuzu	クリティカルな状況にある患者や家族、関与する看護職等に関する本質的な研究課題を見極め、その課題に対する量的・質的研究方法の洗練とその選択、研究方法を吟味します。また、研究計画書作成後は、自律して研究活動を推進する過程を学修します。さらに将来のキャリアビジョンを踏まえて看護教育を担い得る能力を養うために、適宜、支援・指導します。博士論文については、研究目的、研究方法、結果、考察の論理的一貫性、かつ新規性・革新性のある論文を作成できるよう最善を尽くして指導します。研究成果は、国内外の学会や学術雑誌等で公表し、クリティカルケア看護学の学問的発展に寄与する能力を修得できるよう共に取り組みます。

## 大学院看護学研究科博士後期課程（健康支援看護学分野）研究領域・担当教員一覧

※各教員連絡先メールアドレスの後には@med.nagoya-cu.ac.jpをつけてください。

※先端医療看護学分野は担当教員を選択することができます。選択した研究領域の指導教員と必ず事前相談をしてください。

※教員により在学キャンパスが異なります。事前相談の際にはご注意ください。

分野	研究領域	担当教員／ 連絡先	研究領域の紹介
健康支援看護学分野	周手術期看護学	教授 明石 恵子／ e-mail: akashi	周手術期看護学分野では、治療の選択肢として患者に手術の可能性が提示された段階から、術前・術中・術後管理、そして社会復帰後の生活支援に至る一連の期間に提供される看護を説明する理論の開発やよりよい看護方法の開発をめざします。博士論文は、自らの研究疑問に関連する文献を批判的に読むところから始まります。研究計画書の作成、データ収集と分析、論文作成と投稿といった研究過程を通して、自律して研究が行えるようサポートします。
	慢性看護学	教授 安東 由佳子／ e-mail: yukakoa	慢性看護学分野では、慢性看護学の学問的発展に寄与できる研究に取り組んでいます。具体的には、慢性疾患を有する人々やその家族の健康問題に対する効果的な介入方法を探究し、慢性看護学の理論構築に資する研究を行っています。博士論文作成のプロセスでは、既に習得している研究手法に加えて、より研究課題に適した研究手法の習得を目指す等、将来、研究者として独力で研究を遂行できるための能力を育成します。
健康支援看護学分野	高齢者看護学	教授 平田 弘美／ e-mail: hirata	高齢者看護学領域では、健康問題や障がいを持った高齢者やその高齢者の介護者、高齢者をケアする看護師・介護士を対象に、高齢者ケアの質向上を目指した研究を追求します。そのために必要な理論や研究方法、研究プロセスを学び、独立して研究を進める能力を修得することを目指します。高齢者看護学の発展と、地域社会のニーズに対応できる教育・研究者を育成したいと考えています。
	先端医療看護学	教授 窪田 泰江／ e-mail: yasuekbt	排尿生理学を中心に、学生が希望するテーマにあわせて論文作成まで指導します。排尿機能に関わる研究が主体になるため、膀胱収縮・弛緩のメカニズムや神経支配について研究しています。最近の高齢化により患者数が増加している前立腺肥大症や過活動膀胱などの疾患に、特に着目しています。患者さんの QOL と排尿障害を来す疾患との関わりについての研究も行っています。
		教授 加古 英介／ e-mail: ekako	循環、呼吸、痛みを中心とした重症患者の全身管理に関する研究を行います。看護師特定行為や診療看護師など看護領域の拡大に対応した新しいテーマにも取り組んでいきます。一緒に新しいエビデンスを見つけ、看護の質向上に貢献できるような研究を行いましょ
		教授 鏡 裕行／ e-mail: kagami	諸現象の数理モデルによる解明に取り組んでいます。複雑に見える現象であっても、その本質を捉えて数理モデル化することで、その解は、我々に現象の本質を示してくれます。また、ときに、我々を予想もしなかった解に導いてくれます。看護に関する複雑な未解明の現象に対して、数理や、その数値計算などの情報科学的アプローチによる方法で、新たな知見を提供することを目指します。また、導出した数理モデルの検証のため、測定や観察等によるデータ取得、その統計的解析を行います。これらの研究成果を、看護、ヘルスケア、治療方法等に応用します。

## 大学院看護学研究科博士後期課程（ケアシステム看護学分野）研究領域・担当教員一覧

※各教員連絡先メールアドレスの後には@med.nagoya-cu.ac.jpをつけてください。

※国際保健看護学分野は担当教員を選択することができます。選択した研究領域の指導教員と必ず事前相談をしてください。

※教員により、在学キャンパスが異なります。事前相談の際は、ご留意ください。

分野	研究領域	担当教員／ 連絡先	研究領域の紹介
ケアシステム看護学分野	看護 マネジメント学	教授 樫野 香苗／ e-mail: momino	<p>看護マネジメント、がん患者の看護ケアに関する研究を行っています。社会や医療に関わる情勢が大きく変化する中、看護師の潜在能力を発展させる組織的なマネジメントや人材育成が求められています。また、高齢化に伴ってがんを経験する人々が増えていくことから、がんになっても自分らしく生きていくことを支えるケアシステムの開発が重要になってきています。</p> <p>これらのテーマに基づいて、次世代を担う看護に必要な知見を探索する研究プロセスの修得を目指し、研究者として自立することをサポートします。</p>
	感染予防看護学	教授 矢野 久子／ e-mail: yanohisa	<p>医療関連感染などの感染予防ケアに関する研究を行っています。感染予防は、小児から高齢者まで、病院での急性期から慢性期、施設や在宅での長期療養まで幅広く求められる領域です。感染管理認定看護師等の臨床看護師や教員の方は、在職のまま学修を継続できる長期履修制度を活用しています。長期履修生の場合は、一年次に先行研究の文献検討と第一研究の計画・立案（倫理審査を含む）、二年次にデータ収集・分析、三年次に第一研究の論文投稿、予備論文審査及び第二研究の計画立案、データ収集・解析、四年次に博士論文の作成を行います。</p>
	精神保健看護学	教授 香月 富士日／ e-mail: katsuki	<p>この領域では、精神疾患をもつ方やそのご家族に対して、よりよい専門的ケアの提供やケア提供システムを構築できることを目的に効果的な介入方法を探究します。また看護職などの対人援助職の方々が健康的に働き続けることを目的として、メンタルヘルスの問題の現状把握、問題解決およびサポートシステム構築を目指します。研究の遂行については、まず量的研究論文の批判的吟味方法を修得した上で、十分な文献検討を行い、研究疑問を明確にした研究計画を立てます。その後、データ収集、分析、論文作成を行い投稿します。これらの研究過程を通して、研究者として独り立ちできるための自覚と能力を養います。</p>
		教授 谷向 仁／ e-mail: tanimuki	<p>精神疾患、心理的問題、メンタルヘルスにおける認知、感情、行動、睡眠、社会的問題などを主な関心領域として、Bio-Psycho-Socialの視点からの研究を行います。また、臨床現場における精神医学的課題をテーマとして医療者を対象とした調査や教育プログラム開発を多職種で行っています。</p> <p>精神保健分野や心身の相関に関心があり、臨床現場や社会に役立つ研究を多職種の視点から取り組んでみたい学生の研究支援を行います。</p>
	在宅看護学	教授 秋山 明子／ e-mail: akiyama	<p>療養者・家族の在宅療養生活の質向上、ソーシャルキャピタルの醸成による介護予防支援、地域のコミュニティアケアに関わる専門職の能力開発等、地域で包括的なケアが提供できるしくみを構築するための研究を行っています。研究計画から論文作成までの研究プロセスを習得するとともに、研究成果の社会実装を目指して研究に取り組みます。</p>

## 大学院看護学研究科博士後期課程（ケアシステム看護学分野）研究領域・担当教員一覧

※各教員連絡先メールアドレスの後には@med.nagoya-cu.ac.jpをつけてください。

※国際保健看護学分野は担当教員を選択することができます。選択した研究領域の指導教員と必ず事前相談をしてください。

※教員により、在学キャンパスが異なります。事前相談の際は、ご注意ください。

分野	研究領域	担当教員／ 連絡先	研究領域の紹介
ケアシステム看護学分野	地域保健看護学	教授 門間 晶子／ e-mail: akado	地域で暮らす人々の健康に関する事象への、これまでとは異なる新しい見方や理解、健康課題への取り組みの創出につながるような研究を行い、支援します。まず、院生の関心に基づく丁寧な文献検討や研究が依拠する理論的前提・基盤の学習を行います。続いて研究計画を立案し、何度も推敲し、研究倫理審査を受審します。その後データ収集・分析を経て博士論文を執筆します。研究は数段階に分かれることがありますが、一貫性と創造性をもちながら組み立て、取り組むことを支援します。研究者の姿勢、研究者と研究協力者との関係性、研究における主観と客観などについても、気持ちを研ぎ澄ませながら研究を行います。
		准教授 尾崎伊都子／ e-mail: itsuko	地域保健や職域保健において、対象者が健康自己管理能力を高め、健康維持・増進していくための支援方法の開発を行います。保健活動に直接活かされるような研究成果の創出を目指し、保健活動の経験から導かれる問いを重視して研究を進めます。研究の問いを明らかにするための一連の過程(研究計画立案、研究協力機関・研究協力者への依頼・調整、調査実施、データ分析、論文作成、結果の公表)を、一貫性をもって組み立て遂行できるようサポートします。博士後期課程修了後も研究の問いを発展させ、研究を継続していくための能力を習得することを目指します。
	国際保健看護学	教授 樋口 倫代／ e-mail: michiyoh	主に社会疫学的アプローチを用いて、国際的視点をもって取り組むべき健康課題の現状把握、要因分析、対策について探求します。一連の研究プロセスの基本を習得していることを前提に、自らが研究プロジェクトを管理運営し、また、成果を社会に発信し、対策のためのネットワークを築いて行けるようになることを目標とします。健康における公正を目指そうとする研究課題であれば、研究対象地は国内・外を問いません。
		教授 金子 典代／ e-mail: noriyok	保健医療サービスが届きにくいセクシュアルマイノリティ(ゲイバイセクシュアル男性、トランスジェンダー等)における HIV 感染症予防、セクシュアルヘルスプロモーション、医療サービスへのアクセスに関する研究を行っています。研究協力者、調査フィールドと信頼関係の構築能力を養うことも重視します。研究計画立案、調査実施、データ分析、対象者への結果の還元、論文完成のプロセスを通じて、研究者として独立できる能力の取得を目指します。



